

●松繁克道先生の「プロポリス雑感」

「プロポリス雑感」(取材編集：美健ガイド社)－1995年－

中村博彦氏(プロポリス中央研究所初代社長)の座右書よりの抜粋

松繁先生は、富山大学(薬)を卒業され、富山医科薬科大学の和漢薬研究所に勤務される傍ら、農水省構造改善局リフレッシュビレッジ第一部会長を務められている「天然物薬理学」「東洋医学」を専門とされる先生です。

『現代医学にはマイナスの面がありますから、プラス、つまり補填をする必要があります。

補填をするということは“生命力を養う”つまり養生することです。マイナスということは生命力が損なわれることですから、それを補わなければならないのです。それが養生の目的です。

プロポリスで言えば、合成新薬を飲みながらプロポリスを飲めば、合成新薬のマイナス(副作用)を軽減することができるというわけです。

それはプロポリスの直接的効用ではないにしても、非常に重要なことです。薬ではないけれども、医薬品の副作用を補填するということは、素人療法ではなく、養生するという、患者としての役割分担なのです。それを医師に 100%全部まかせていけば、それはそれで治療効果が上がったとしても、それで良いというわけではなく、その裏にマイナスが存在していて、場合によっては、それを抑えなければいけません。

病気が完治したとしても健康になったということではありません。合成新薬で副作用を補うということはできないし、そうしようとすれば、またそこで新たな副作用を生んでしまいますので、こういう天然物で損失補填をするということです。

もともと症状を狙い撃ちにするのが合成新薬ですから、症状が軽くなれば良いのであって、同時に副作用まで抑えるということはありません。勿論、治療の現場では、Aの薬に対してその副作用をBが補填することによって、例えば、消化不良を起こすという場合には消化剤をあわせて飲ませるといった配慮はあります。しかしまた、そのBに対する副作用があるわけで、それではキリがなくなるわけです。ですから、それは養生という形で補填していかないと、見かけの副作用を補填するだけではまた次の副作用が出てくるということです。

合成新薬の副作用として恐いのは、薬疹が出るとか便秘になるという一時的な作用ではなく、生命力が損なわれることなのです。

病気に負けない力、対抗力というのは、やはり天然物で生命力を養わなければダメですね。食によって気を高めるためには気の強い自然食品を採る、補填力のある健康食品を摂取するということです。

また、温泉に入ったり、運動して汗をかいて毒素を抜くことも必要です。気を入れるということだけではなく、気をためやすい体内環境を作らねばなりません。

やはりパワーを出すためには、血液浄化をはからねばなりません。そのためにはプロポリスによって気を注入し浄血するということです。

近年、病気の大きな原因の一つとして「活性酸素」(毒性酸素)が注目されています。体内の非常に恐いゴミです。プロポリスにはこの活性酸素を消去する作用があるのです。

“血気盛んに病なし”と言いますし、それが養生の目的なのです。それをしないでおいて、いくら医者にかかって治療して、病気は治っても健康にはならないのです。

生命力を養い、損失補填をし、そして体内の環境整備をするということです。これこそが養生の目的なのです。

プロポリスは自然のもので気が強く浄血の効用・活性酸素を消去する作用がありますから、養生に応用してほしいのです。』